The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ここ10年の創作活動
Author(s)	徳岡, 昌克
Citation	デザイン理論. 1993, 32, p. 96-97
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52827
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

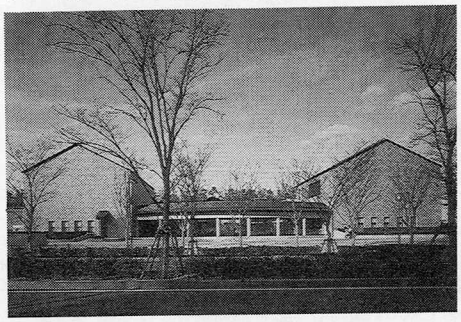
The University of Osaka

ここ10年の創作活動

徳岡昌克

長年勤めた竹中工務店を円満退職し，建築設計事務所を創設してから，ほぼ10年が経とうとしている。今回は，この間に創り上げた作品について，発表の機会を頂いた。

1．神戸市立小磯記念美術館



神戸の有名な画家である故小磯良平画伯の記念美術館である。この美術館は，小磯画伯の作品を中心に展示し，一方で企画展示も行っている。画伯の作品の中には，遺族から寄贈された未発表の作品も多く含まれており，また中庭には画伯のアトリエを移築復元している。

技術面においては，建築地が六甲アイランドという埋立地であるため，不同沈下を十分に考慮する必要があった。また周囲の公園の地形を生かす目的で，建物の多くを地中に埋めているが，その周囲に陽光の差し込むドライエリアを設け，防水，防湿に配慮している。

この作品の計画段階において，小磯画伯のお弟子さんから，「この美術館は，小磯画伯の作品を鑑賞することが目的であるので，建築はそれを入れる箱に過ぎない。したがって倉庫のような物であったら良い。」との要望があった時はさすがに困惑した。それゆえに全体として控えめな，落ちついた雰囲気づくりを心掛けた。

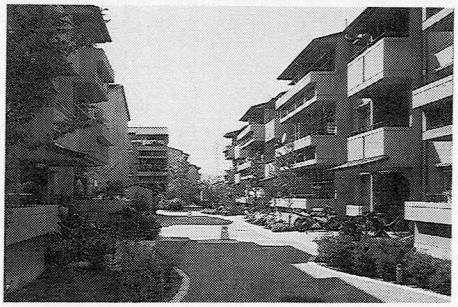
2．田川文化エリア整備事業美術館
（田川市美術館）

福岡県田川市は，旧産炭地である。同市の活性化のため，田川文化エリアは計画され，市民の芸術・文化活動の拠点として，また，散策，憩いの場として活発に利用されている。この文化エリアは田川市美術館，図書館，モニュメント，喫茶店等で構成され，図書館は増改築のみであったが，その他一切を手掛けている。

意匠の面から言えば，外壁を土色のタイルで覆い，屋根は周囲の山並に対応する形態を銅板で表現した。内部には，透過性のある大理石を薄くスライスし内照するといった手法を用いている。こういった方法は，以前より荻須記念美術館においても用いているが，石というものは本来，スライスしてみないと一体どういった模様が出るのかわからないものである。従って今回も実際

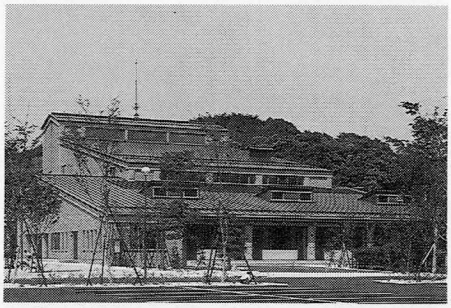
にスライスしたものを並べ替えて組み立てる方式をとった。つまり，私がデザインしたというより，自然がデザインしたものを生かして用いたのである。ふるさと創生資金の一部でつくったモニュメントにもこの手法は用いられている。鉄骨のフレームにはめ込まれた大理石は内側より照らされることで，昼と夜，異なった表情を現す。また土地柄，鉱物の結晶体をモチーフとしたステンドグラスや面格子，手摺，照明器具などがある。

3. 大阪府営高槻城東団地



高槻市城東にある府営住宅である。住宅を真北に対して45度ふる，つまり雁行配置することによって，終日日影になる所をなくす工夫をしている。これは緑の団地を形成させたいという願いのもとに，日当たりを良くして植生の発育を促す役目も果たしている。この集合住宅は２ＤＫ～４ＤＫの他に，車椅子常用者世帯向け住宅（M・A・Ｉハウス）や高齢者向け住戸（シルバーハウジング）等，福祉の街づくりにも役立つ設計となった。また広場を設けたり，それぞれの通りに変化に富んだ植栽を施すのみならず，南北両側のバルコニーに花置台を作っている。これは，向かい合う住棟各戸のバルコニーで多くの様々な花が咲くことにより，その花が共同住宅のコミュニティ形成のための“共通言語”となり得ると考えたからである。

4. 志賀町民センター・志賀町立図書館



東に琵琶湖，西に比良の山並を背景として建つ志賀町民センターは，内部に文化小劇場，保健センターを持ち，隣接する図書館と共に滋賀県志賀町の文化エリアを形成している。こちらも，田川文化エリアと同様に外壁を土の色を表現したタイルで覆い，内部には，ステンドグラスやトップライト等を用いることにより，光を調整しながら取り入れ，落ち着いた雰囲気を創り出す工夫をしている。

タイルの使い方をはじめ，全体的にどこかヨーロッパ調のものがあるとのご指摘も頂いたが，意識してそうしている訳ではない。堅牢で美しく，その土地の風土になじみ，長年に渡って親しまれる建物を創り出すのが目的である。しかし，若い頃に，組積造つまり石やレンガの使い方について学ぶ機会を得たことで，結果的にそう見えるのかもしれない。

また長年に渡って親しまれる建築という点では，“ディテールに神宿る”というミースの言葉の通り，細部にまでこだわっていくことは重要だと考えている。

とくおか・まさかつ　株式会社徳岡昌克建築設計事務所
1993. 5 .15　第135回研究例会